

下水道事業

区 分	令和5年度	令 和 4 年 度		算 出 方 法
		久留米市	全国平均	
長期的健全性				
1 固定資産構成比率(%)	95.3	95.3	96.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産} + \text{流動資産} + \text{繰延資産}} \times 100$
2 固定負債構成比率(%)	50.2	48.5	30.1	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
3 自己資本構成比率(%)	44.9	44.9	65.7	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
4 固定資産対 長期資本比率(%)	100.2	102.0	101.2	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$
5 固定比率(%)	212.2	212.3	147.6	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$
短期的支払能力				
6 流動比率(%)	95.5	71.7	73.5	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
7 当座比率(%)	84.5	45.6	67.5	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$
8 現金比率(%)	36.4	23.4	52.1	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
資産・資本の有効利用等				
9 自己資本回転率(回)	0.1	0.1	0.1	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首資本} + \text{期末資本}) \div 2}$
10 固定資産回転率(回)	0.0	0.0	0.0	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$
11 当年度減価償却率(%)	3.2	3.2	3.9	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{固定資産(有形+無形)} - \text{土地} - \text{建設仮勘定} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$
利益率・収益性				
12 総資本利益率(%)	0.6	0.5	0.3	$\frac{\text{当年度経常利益}}{(\text{期首総資本} + \text{期末総資本}) \div 2} \times 100$
13 総収支比率(%)	111.3	110.6	105.1	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
14 経常収支比率(%)	111.7	110.4	105.0	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
15 営業収支比率(%)	79.8	79.4	65.0	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$

経営分析表

区分	令和5年度	令和4年度		算出方法
		久留米市	全国平均	
企業債関連				
16 利子負担率(%)	1.1	1.1	1.3	$\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債} + \text{一時借入金}} \times 100$
17 企業債償還元金対減価償却額比率(%)	176.7	182.3	137.2	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$
18 企業債償還元金対料金収入比率(%)	72.9	74.7	101.4	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{料金収入(下水道収益)}} \times 100$
19 企業債利息対料金収入比率(%)	18.2	17.9	—	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入(下水道収益)}} \times 100$
20 企業債元利償還金対料金収入比率(%)	91.0	92.4	—	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入(下水道収益)}} \times 100$
21 企業債残高対事業規模比率(%)	1,191.1	1,160.1	616.1	$\frac{\text{企業債現在高} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$
職員関連				
22 職員給与費対料金収入比率(%)	6.1	5.4	9.7	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入(下水道収益)}} \times 100$
23 職員一人当たり営業収益(千円)	181,103	180,588	117,585	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$
24 職員一人当たり有形固定資産(千円)	2,624,488	2,533,304	2,044,767	$\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$

(備考)

- 1 総資本は、負債と資本との合計額を用いて算出している。
- 2 No.17の企業債償還元金対減価償却額比率は、国の算定式にあわせて、令和5年度より、分母を「当年度減価償却費」－「長期前受金戻入」として算定しており、過年度分についても、同算定式により算出している。
- 3 No.22の職員給与費対料金収入比率の算出要素である職員給与費は、損益勘定所属職員に係る給与費を用いている。
- 4 全国平均欄の数値は「地方公営企業年鑑」(総務省)の「第2編 第3章 7.下水道事業 11 下水道事業の経営状況」の数値を用いている。ただし、No.19とNo.20の全国平均の指標については、企業債に関して公表されていない項目もあるため「—」表示としている。
- 5 上記表中、令和4年度の数値は、令和4年度久留米市公営企業会計決算審査意見書に記載した暫定の数値を、国・県の審査後に修正された値に置き換えているものがある。